

研修報告

産業建設常任委員会

2月14日～15日

●研修目的

△景観計画の策定のついて

●研修地

△島根県 津和野町

●研修結果

津和野町は平成17年9月に2町が合併し人口約8400人世帯数約3400世帯、面積307平方キロメートルの山陰の小京都と親しまれ森鷗外（森鷗外）の出生地で年間約100万人の観光客が訪れる山陰有数の観光地です。

経緯は昭和48年3月旧津和野町が環境に対する保全条例を制定し、歴史的文化遺産を対象に保全を目的にしました

平成16年に景観法が定められたのに伴い町環境保全条例を生かしながら新たなニーズに合った総

合的な視点からの景観計画を策定する必要があり、そのためには専門知識や実務経験からの情報を取り入れる必要があると考え業者選定による企画提案協議を実施しています。

18年6月より選定業者との業務委託契約を結び、その後景観計画策定委員会を設置しています。

景観計画の基礎を作るため住民に広く参加していただき協働して取り組み13回のワークショップを開催しています。特に若い世代の高校生とのヒヤリングは大変参考になったそうです。

●今後の課題

景観行政として理解を得るためには、PR活動が重要であることや、観光客をもっと誘致することなど今後の課題もあるようでした。

本町も、津和野町の研



研修風景



趣のある庁舎前にて